

富山県若年性認知症 相談・支援センター活動だより

第2号

富山県若年性認知症相談・支援センター

〒930-0094 富山市安住町5-21 サンシップとやま5階
TEL:076-432-7501 FAX:076-432-6578

富山県若年性認知症相談・支援センターを開設してから3年が経過しました。

相談件数は徐々に増えていますが、まだまだ若年性認知症のことが理解されておらず、より一層、普及啓発をしていく必要があると感じています。

また、そういう中で、これからの生活をどう築いていくか悩み、当センターへ相談に来られた方々には、正しい情報を提供するとともに、本人ができること、やりたいことに寄り添い、地域で孤立しないよう丁寧な支援することに努めています。

その際、関係機関との連携は大変重要となります。今後も関係機関の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

平成30年度活動実績

個別相談支援

【相談状況】

■相談者数

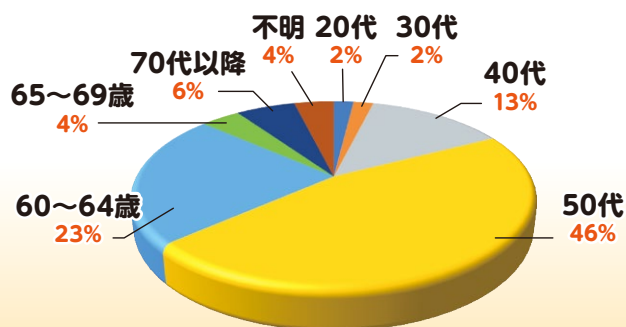
実数	52人
延数	311人

■相談者の内訳

家族や親族からの相談が約半数を占めています。

■相談者の年代(実数)

50歳代60歳代で約7割を占めています。

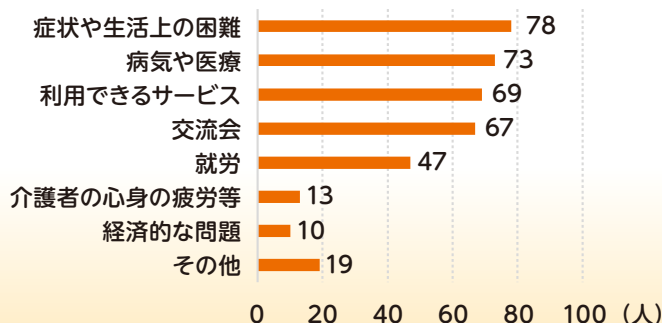


電話相談・面接相談

月～金曜日 9:00～16:30
土曜日 13:00～16:00
☎076-432-7501



■相談支援内容(延数)



【事例紹介】退職して居場所を探ることができたAさん・女性 (50歳代)

商店で働いていたが、仕事の段取りがうまくいかなくなり、正社員からパートになりました。その後、夜中に品物を袋詰めしようとする等の症状があり、夫が自分の勤務先の産業医に相談。認知症疾患医療センターを紹介され、アルツハイマー型認知症の診断を受け、当センターに来所されました。仕事は、商品の袋詰め作業等も数を間違えるようになったため退職し、家事は今までの3倍ほどの時間がかかることもありました。家以外の居場所を希望されたため、相談支援事業所と連携して自宅近くの就労継続支援事業所を見学後、体験利用を経て正式利用へと繋がりました。

その後、排泄介助が必要となったため、事業所(週3回)の利用に加え、デイサービス(週2回)と訪問介護の介護保険サービスを併用して利用することになりました。

夫は一時退職を考えていたが、現在は仕事を続け、Aさんは日中の居場所を見つけて安心した生活をしてられます。

ご本人・家族の交流会

サンシップとやま501号室

家族でないとわからない体験や日頃の悩みなどを自由に話し合いながら、情報交換したり、相談したりしています。

その間、ご本人には社会参加の場として、歌を歌ったり、絵を描いて楽しんでいただいています。

回	月日	参加者
1	H30.7.21	4組8人
2	H30.10.27	4組7人
3	H31.3.9	7組13人



家族から 出た意見

- 退職（または休職）して家で悶々と過ごしている。本人の居場所や働く場所はないか。
- 運転免許証を返納しながらないが、どうしたらよいか。
- 事業所に通うようになったら、生活のリズムが整ってきた。
- ボランティアをするようになってから、笑顔がみられるようになり、あまり進行していない。



支援者のための研修会

サンシップとやま602～604号室

H30.10.5	内容	参加者
	講演「若年性認知症とともに生きる人への支援」 全国若年性認知症支援センター室長 山口 喜樹 氏	36人

参加者のアンケート結果からは、高齢者の認知症とは異なる若年性認知症人の対応の仕方が理解できた、出会ったら早期に支援する必要性を感じたという意見がありました。

ネットワーク会議

サンシップとやま603・604号室



H31.2.7	内容	参加者
	テーマ「若年性認知症の人の仕事の場（居場所）づくり支援」 講義を聞き、活動報告と意見交換を行いました。 〈講師・助言者〉認知症介護研究・研修大府センター 研究員 齊藤 千晶 氏	41人

出席者：認知症疾患医療センター、県産業保健総合支援センター、県介護支援専門員協会、労働局、障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、市町村、厚生センター

意見交換から

- 認知症になった事を近所の人に隠しているため、支援が進まない
- 認知症の症状が進行する前からの早期支援が大事
- 認知症疾患医療センターや地域包括支援センターへ訪れた人を関係機関へ繋ぎ、切れ目なく支援していくことが大切
- 若年性認知症相談・支援センターの周知が必要

若年性認知症支援コーディネーターの つぶやき

相談を終えた後、いつも相談者の役に立っただろうか、気持ちに寄り添うことができたかどうかと自問自答してしまいます。そのような中、当事者を紹介した事業所の所長さんから「〇〇さんは、ここ（事業所）の人になられましたよ」という言葉を聞いた時は、〇〇さんが次の人生のスタート地点に立つことができたように感じて喜びでいっぱいになりました。

相談者との様々な出会いに一喜一憂しながら、何とか力になりたいと頑張っています。

若年性認知症
ハンドブックの
冊子をご希望の方は、
富山県若年性認知症
相談・支援センター
へお問い合わせくだ
さい。



当センターのホームページからも
ダウンロードできます。